

視 察 報 告 書

報告者氏名：石山 満

委員会名：教育福祉常任委員会

期 間：平成 29 年 10 月 18 日（水）～20 日（金）

視察都市等及び視察項目：

東京都港区 「幼・小中一貫教育」について

愛媛県 「学力向上推進 3 か年計画」について

奈良市 「幼児教育アドバイザーの育成プログラムの開発」について

所 感 等：

港区「幼・小中一貫教育」について

10 月 18 日、港区教育委員会が推進する幼・小中一貫教育の取り組みについて視察した。港区教育委員会では、「港区学校教育推進計画」に幼・小中一貫教育が位置付けられ、幼児期の教育（3 年間）から、小中学校の義務教育（9 年間）を連続した 12 年間と捉えた指導方針のもとで子供たちの育成を行っている。



「幼・小中一貫教育」について担当者から説明を受ける

(1) 幼・小中一貫教育の目的

保幼・小中の教職員の総力を結集し、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かい指導を充実させ、教育の質的向上と豊かな学びを保障する。

【幼児・児童・生徒】

- 子どもたちの学習状況等を共有し、子ども個々の目標や課題に応じたきめ細やかな指導を継続し「確かな学力」の定着を図る。
- 子どもたちの異年齢交流を推進することで、年少者や年長者との関り方を身に付けたり、「思いやり」等の気持ちを養い、「豊かな心」を育む。
- 保幼・小中が連携し、計画的・継続的に体育・健康教育や食育等に取り組み、体力の向上及び健やかな体の育成を図る。また、発達段階に応じた安全・防災教育も計画的に積み重ね、危険予知・回避能力等を身に付ける。

【教職員・学校】

- 保幼・小中の交流を通して、教職員が子どもの発達段階における特性や異なる校種の指導内容・方法等を理解する。教職員同士が校種を超えて、互いのよさを学び合う枠組みを整備することで、教職員の保育・授業力や生活指導力を高める。
- 幼・小中一貫教育を推進する過程において、取り組みを振り返ったり、教職員一人ひとりが役割を分担したり、コーディネーターを中心に組織的な協力体制を確立する中で、園や学校の経営参画意識を高める。

【保護者・地域】

- 幼・小中一貫教育の推進は、教育改革の枠組みに留まらず、地域の活性化にも密接に関わり、地域の諸団体・外部機関及びボランティア団体等と連携しながら、地域や園・学校の教育力を高め、地域と一緒に育った園・学校づくりを推進する。

(2) 幼・小中一貫教育の特徴

特色ある教育活動や施設の立地条件が地域によって異なるため、平成24年度から3年間、中学校通学区域を単位とする10のグループ(アカデミー)毎に幼・小中一貫教育の研究を実施。「小学校入学前教育カリキュラム」と「MINATOカリキュラム」をベースに、それぞれの物理的な距離を踏まえた幼・小中一貫教育を目指している。学校の教員同士が教科の研究を一緒に行ったり、子ども同士の作品交流を行ったり、学校行事を通しての交流や学校だよりの交換など、柔軟な発想の中で幼・小中一貫教育を推進する。

平成29年度

お台場アカデミー

保育園・幼稚園・小中学校が連携・協力し、

子どもたちのよりよい成長を支えます

～地域で育む0歳から15歳までの子どもの成長～



お台場の地域では、子どもたちは幼少期からの顔なじみが多く、親交を深めながら地域にある保育園、幼稚園、小中学校に通いながら日々成長しています。

「地域の子どもは地域で育てる」との共通の理念をもち、互いに連携・協力し、情報を共有しながら子どもたちのよりよい成長を支えていきます。

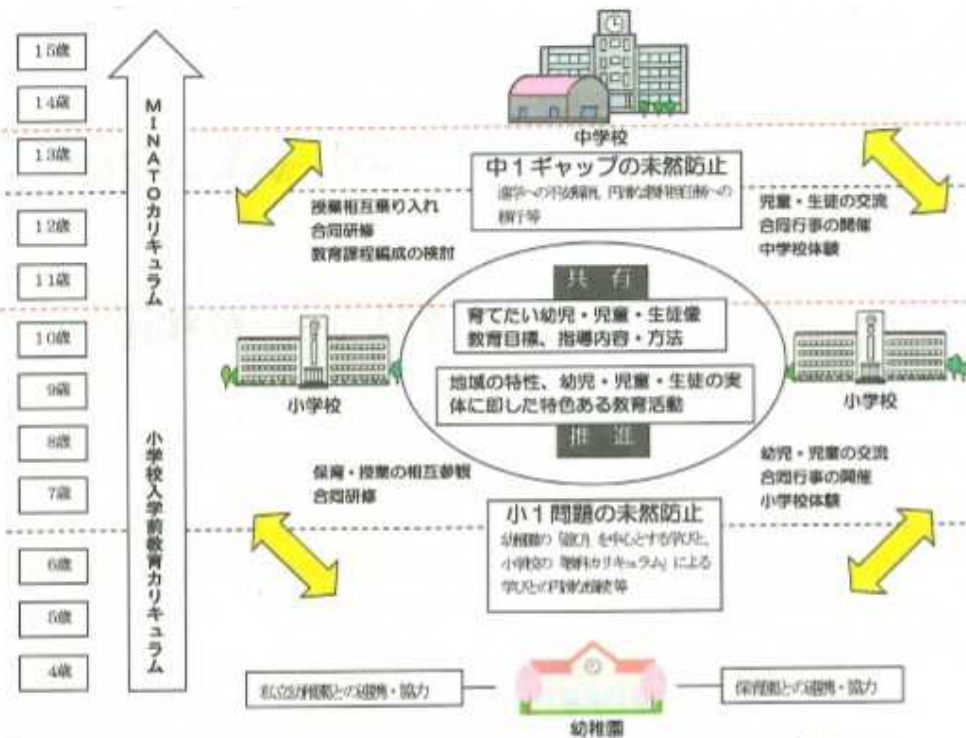
港区立にじのはし幼稚園

港区立小中一貫教育校お台場学園

港陽小学校・港陽中学校

お台場アカデミー

(3) 幼・小中一貫教育のイメージ



4 幼・小中一貫教育研究組織 (アカデミー)

小中一貫教育校 (★施設一体型) ※は別施設 *横井*

- ★お台場アカデミー (港陽中、港陽小、にじのはし幼)
- ★白金の丘アカデミー (白金の丘中、白金の丘小、※三光幼)

小中一貫教育 (◎施設隣接型 ○カリキュラム連携型)

- ◎御成門アカデミー (御成門中、御成門小)
- ◎赤坂アカデミー (赤坂中、赤坂小、中之町幼)
- 港南アカデミー (港南中、港南小、港南幼、芝浦小、芝浦幼)
- 高陵アカデミー (高陵中、荻小、本村小、本村幼)
- 三田アカデミー (三田中、芝小、御田小、赤羽小、赤羽幼)
- 高松アカデミー (高松中、高輪台小、高輪幼、白金小、白金台幼)
- 六本木アカデミー (六本木中、麻布小、麻布幼、南山小、南山幼、東町小)
- 青山アカデミー (青山中、青山小、青南小、青南幼)

副校長さん

② 4年生の段階で小学校 50~55%
52%→65% (率)

幼・小中一貫教育のイメージ

所 感：

中学校通学区域を単位とする 10 の幼・小中一貫教育研究組織であるアカデミーは興味深かった。幼児期の 3 年間と小中学校の義務教育の 9 年間を一体としてとらえ 12 年間を見据えた中で、小 1 問題の未然防止や中 1 ギャップの未然防止を解消するよう取り組んでいる。アカデミーは幼・小中一貫教育研究組織であり、施設一体型として 2 校、施設隣接型及びカリキュラム連携型として 8 校が現状であるが、施設隣接型 1 校が施設一体型へと移行予定となっている。

施設一体型が望ましいが、施設隣接型やカリキュラム連携型でも幼・小中一貫教育のカリキュラムは内容に差異が生じないように工夫しているとのことであった。将来的な児童・生徒数の変動に対する学校施設の統廃合を踏まえれば、必ずしも施設一体型が幼・小中一貫教育に必須な条件ではないことが、今回の視察で確認できたことは、将来的な本市の幼・小中一貫教育を推進する際の議論で参考になると考えられた。

愛媛県「愛媛県学力向上推進3か年計画」について

10月19日、愛媛県が推進する学力向上3か年計画の取り組みについて視察した。

愛媛県の平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要を以下に記載する。

○小中学校全ての教科において、A問題（知識）B問題（活用）とも全国平均を上回っており、昨年度、課題と見ていた小学校のA問題においても向上が見られた。

○B問題（活用）の問題において、小中ともに全国平均を2～3ポイント上回っており、昨年度に引き続き良好である。

平成29年度全国学力・学習状況調査 愛媛県調査結果概要（公立学校）

1 調査の概要

- 調査実施日：平成29年4月18日（火）
- 調査実施校：小学校272校（約11,000名）【特別支援学校小学校2校を含む】
※ 調査対象児童が1名の小学校2校が児童欠席（出席停止）のため未実施
中学校133校（約11,000名）【中等教育学校3校、特別支援学校中学校4校を含む】
- 調査対象学年：小学校第6学年、中学校第3学年

2 教科の平均正答率について

- 小中学校全ての教科において、A問題（知識）、B問題（活用）とも全国平均を上回っており、昨年度、課題と見ていた小学校のA問題についても向上が見られた。
- B問題（活用）の問題において、小中ともに全国平均を2～3ポイント上回っており、昨年度に引き続き良好である。

【平均正答率（％）】

教科	問題	問題		教科別	
		A（注としての知識に関する問題）	B（注としての活用に関する問題）		
小学校	国語	愛媛県	77	59	136
		全国	75	58	133
	算数	愛媛県	82	50	132
		全国	79	46	125
	総合	愛媛県	268		
		全国	258		
中学校	国語	愛媛県	79	74	153
		全国	77	72	149
	数学	愛媛県	67	51	118
		全国	65	48	113
	総合	愛媛県	271		
		全国	262		

表中の は、全国平均以上

3 質問紙調査について

- 小中学校とも、「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合が全国に比べて高く、良好な状況が続いている。
- 小中学校とも、「家庭で宿題をしている」、「話し合う活動で考えを深めたり、応がたりできていると感じている」と答えた児童生徒の割合は、小中学校とも全国に比べて高くなっている。

〈自己肯定感について〉

- 自分にはよいところがあると思っている児童生徒

	愛媛県（％）	全国（％）
小学校	79.6（78.9）	77.6（76.3）
中学校	74.4（73.0）	70.7（69.3）

〈家庭学習について〉

- 家で学校の宿題をしている児童生徒

	愛媛県（％）	全国（％）
小学校	97.4（97.5）	96.9（97.0）
中学校	93.8（93.0）	89.5（90.1）

〈将来の夢や目標について〉

- 将来の夢や目標をもっている児童生徒

	愛媛県（％）	全国（％）
小学校	87.6（87.3）	85.9（85.3）
中学校	74.7（75.3）	70.5（71.1）

〈授業について〉

- 話し合う活動で考えを深めたり、応がたりできていると感じている児童生徒

	愛媛県（％）	全国（％）
小学校	70.1（70.3）	68.2（68.3）
中学校	67.4（66.8）	64.8（64.8）

※ 表中の（ ）は、平成28年度の数値

全国学力・学習状況調査の推移を以下に記載する。

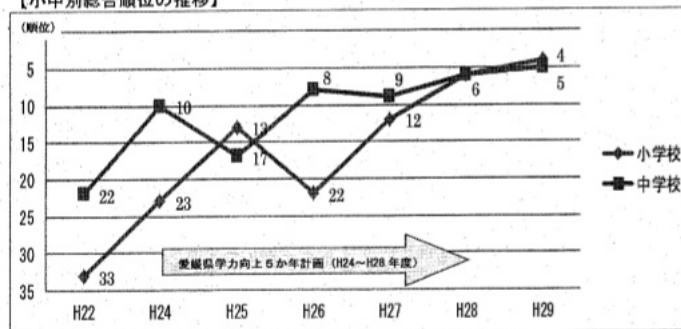
全国学力・学習状況調査結果の推移

【過去6年間の全国平均を上回った調査区分数】
 調査区分とは…国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bの4区分
 H24とH27は理科を加えた5区分

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	学力向上システム構築事業					
小学校	1 (23位)	4 (13位)	1 (22位)	3 (12位)	4 (6位)	4 (4位)
中学校	5 (10位)	3 (17位)	4 (9位)	5 (9位)	4 (6位)	4 (5位)
調査	抽出、理科込み	悉皆	悉皆	悉皆、理科込み	悉皆	悉皆

※□は全調査区分で全国平均を上回る。 ※ () は、総合順位

【小中別総合順位の推移】



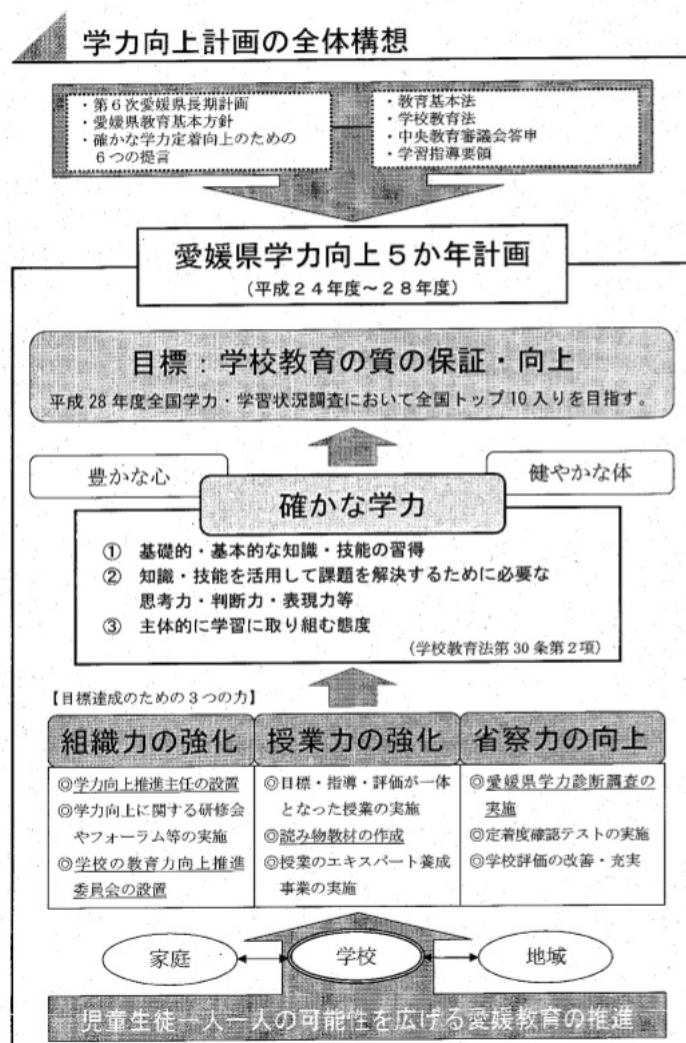
【知識、活用別順位】

知識…国語Aと算数・数学Aの正答率を平均
 活用…国語Bと算数・数学Bの正答率を平均

調査	H25 悉皆	H26 悉皆	H27 悉皆	H28 悉皆	H29 悉皆	
小	知識	23	31	28	10	5
	活用	9	17	8	6	4
中	知識	19	12	8	6	5
	活用	15	7	11	6	4

愛媛県学力向上5か年計画（H24～H28年度）で全国10位入りの目標が達成されている。

次に愛媛県学力向上5か年計画の学力向上計画の全体構想を以下に記載する。



平成28年度全国学力・学習状況調査において全国トップ10入りを目指すことを学校教育の質の保証・向上の具体的な目標に掲げられている。

学力向上に大きな効果を発揮したツールとして、学習支援サイトの学習シートが挙げられる。下記に小学校学力向上推進計画の記入例を記載する。Plan で具体的な取組（目標値）に記載されているが、県が管理する「愛媛学びの森」学習支援サイトの学習シートを授業で活用し、基礎・基本の定着を図るとして全授業回数の20%以上を目標に据えている。

この学習シートは、経験豊かなベテランの教職員の知恵を生かして作成され、若い経験の浅い教職員が活用することで授業レベルの格差を解消することに効果を発揮している。また、様々な学習シートが提供されている。

記入例

平成 29 年度〇〇立〇〇小学校学力向上推進計画 2 (H29 年 10 月～平成 30 年 3 月)

※ 各学校の実態に応じて基礎または応用のどちらかに絞ってもよい。
 ※ 各記入欄は中央の点線を削除し、基礎と応用の両方を含んだ記載としてもよい。

校 長 氏 名	〇〇 〇〇
学力向上推進主任氏名	〇〇 〇〇

前サイクルを踏まえての児童の実態把握

<p>【基礎】</p> <p><input type="checkbox"/> 自主的な読書量が少ない。</p>	<p>【応用】</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の考えを明確にして表現する力が弱い。</p>
----------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

身に付けさせたい能力や態度

<p><input type="checkbox"/> 自ら読書に親しむ態度</p> <p><input type="checkbox"/> 基礎的・基本的な知識及び技能</p>	<p><input type="checkbox"/> 意図を捉えながら聞き(読み)、自分の意見と比較して考えをまとめ、表現する能力</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------

Plan 具体的な取組【目標値】

<p><input type="checkbox"/> 「愛媛学びの森」学習支援サイトの学習シートを授業で活用し、基礎・基本の定着を図る。→[全授業回数の20%以上]</p> <p><input type="checkbox"/> 朝読書を実施し、読んだ本を「みきゃん通帳」に記録させることで、読書意欲の向上を図る。→[月1冊以上読む]</p>	<p><input type="checkbox"/> 「〇〇タイム(本校独自の話し合い活動)」の実施方法を決め、発達段階に応じて全校で実施する。→[毎日1時間以上実施]</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

※ 基礎と応用の観点から具体的な取組を記入する。
 ※ スモールステップを意識し、全校体制で取り組むことができる内容にする。

2 Do 実践

全教職員による共通実践

Check 評価

基礎
応用

【県学力診断調査(12月実施)における目標値】

【評価の観点】

全教科平均正答率が県平均よりも5ポイント以上高い児童の割合

【目標値】

65%以上

判定基準	
A	65%以上
B	55%以上
C	50%以上
D	50%未満

※ 県学力診断調査における評価の観点及び目標値を決定し、成果と課題を検証する。

3 【成果〇と課題●】

<具体的な取組について>

- 「愛媛学びの森」学習支援サイトの学習シートを授業で活用することで、基礎的・基本的な知識の習得が図られた。また、学年によっては家庭学習の教材として活用した例も見られた。
- 個々の児童の実態に応じた学習プリントの活用方法について、職員研修を実施していく必要がある。
- 「みきゃん通帳」を活用することで、読書への意欲が高まった。昨年度に比べて、休み時間を活用して読書をしている児童が見られるようになった。
- 学級担任へのアンケートによると、読んでいる本のジャンルに偏りが見られる児童もあり、今後も継続して指導していく必要がある。

※ 実際にを行った具体的な取組を目標値を使って客観的に評価する。(成果と課題)
 ※ 県学力診断調査における目標値についての成果と課題も記入することとする。

4 Action 改善

課題をより明確にし、

県提供の学習シート

【学習シートの内容】 現在 1519 シート 利用率 H29年2月現在

	作成年度	対象	提供数(予定)	解答想定時間	利用率()内H27年度
予算付シート					
国語の読んで書く力を伸ばす学習シート	H25	小 5、6	30	15分	100% (100%)
	H26	中 1~3	30	15分	100% (100%)
算・数の応用力を伸ばす学習シート	H27	小 4~6	30	15~30分	100% (100%)
		中 1~3	30		100% (100%)
社会科 自主学習シート (歴史的分野)	H28	中 1~3	110	5~10分	100%
理科 基礎力強化シート	H29	小 3~6	(80)	5~10分	
英語 応用力強化シート	H29	中 1~3	(60)	10~15分	
ゼロ予算シート					
国語基礎シート	H26	小 5、6	15	5~10分	小 100% 中 100%
国語基礎シート (漢字・語句)	H27	小 1~6 中 1~3	100 30	15分	
国語基礎シート (フォローアップ)	H27	小 4~5	3	10分	
		中 1~2	3		
国語 チャレンジテスト	H27	小 5	2	20分	
		中 2	2	45分	
国語 ローマ字学習シート	H28	小 3	19	15分	100%
国語 漢字のうた	H28	小 1~6	12		
社会科基礎シート	H27	小 3~4	1	45分	
	H28	小 4~6	28	15分	
社会科リーフレット (選挙)	H27	中 1~3	1	15分	
算数・数学基礎シート (計算)	H26	小 1~6	990	5~10分	100% (95%)
		中 1~3			100% (79%)
算数・数学基礎シート (フォローアップ)	H27	小 4~5	5	10分	
		中 1~2	5		
算数・数学 チャレンジテスト	H27	小 5	1	20分	
		中 2	1	45分	
理科基礎シート (基礎ドリル)	H26	小 3~5	16	5~10分	小 100% (89%)
	H28	小 3~6 中 1~3	4 21		中 100% (78%)
英語基礎シート (英単語・文法)	H28	中 1~3	30	10分	100%

県が提供する学習シートの活用事例を以下に記載する。

本シートは、「愛媛学びの森」学習支援サイトからダウンロードし、ドリルや発展学習等で用いるほか、アレンジして教材として使うこともできます。本資料は、小・中学校の国語学習での活用例をまとめています。

学びの基礎力強化シート 活用例（中1国語） シート番号3、4

活用の方法【集めた情報を関連付けて書く学習で、問題文をアレンジし、教材として用いる。】

単元構想例

- 1 関連する記事の例に触れ、単元の学習の見通しをもつ。※本教材を使用
- 2 伝える相手を明確にして、新聞や雑誌などから情報を集める。→情報収集のための期間を設定
- 3 集めた情報を整理して、文章にまとめる。（感想を伝え合う。）

活用例1

次のA、Bの文章は、いずれも新聞記事です。Aの記事中の色を付けた部分については、数日前に書かれたBの記事と関連付けて読むことによって、より深く理解することができます。

なみだの理由が新しかった。今年、二十回目をむかえた全日本大学選抜相撲手と島大会。県内大学から初出場した松山大学の小坂なみだ選手が初戦で奮り切れ、土がついた。なみだを流したの、強い相手とはいえ、敗戦のくやしきからだろう。そう思っていると、返ってきたのは、こんな僕へのかん声が聞こえた。（力士として）認めてもらえてうれしかった。言葉、負けてうれし泣きする選手に会ったのは初めてだった。

相撲にあこがれ、まったくの未経験から大学入学後、約一年のけいこでいよいよ初の公式戦。土俵入りの際は、地元の前相撲ファンからはくちがわき、名前をよぶ応援が数度会場にひびいた。相撲ではありがちな光景かもしれないが、彼にとっては大きな意味があった。

けいこを積み相撲道場の先生から、大会前に聞いた言葉が思い出された。

「四年で一勝を目指す。そういうスポーツの楽しみ方もあるでしょう。」

大会での生き生きとした動きやじゅう突した表情が、その言葉の説得力を何倍にもした。

選手がスポーツに求めるものは、一つではないことを思い知らされた。今まで自分がたよりがらだった「勝った」「負けた」だけのものさしが小さく見えた。

二日後に宇和島市で開かれる全日本大学選抜相撲手と島大会に、愛媛県内の大学から初めて松山大学一年生の山本広さん（仮名）が出場する。相撲を始めて一年あまりで全国の強敵にいい。

山本さんは、「小さい力士が大きい力士をたおすのが楽しい。」と語る。身長一八〇センチ、体重八十一キロ。全国大会に出場する選手としては小さな体格だ。その分、素早い動きで勝手をねらう。

新居浜市出身で中学時代は陸上の選手。中学二年生のとき、初めて大相撲をテレビで見ると、運動能力の高さにおどろいた。特に、小がらな日髙富士関（現、横綱、当時安馬関）の相撲に引きつけられた。

とはいえ、新居浜には相撲道場がなく、地元の高校時代はテレビを見て相撲界にあこがれる日々。大相撲の年間六場所はほぼ欠かさずチェックし、大塚場所にも足を運んだ。大学進学で松山に引っ越したことをきっかけに、「待つてました。」と道場の門をたたいた。

松山市の相撲道場で週二日、基本を中心に汗を流す。一年で体重は約十キロ増え、昨年十月に西予市で開かれた乙女大相撲では、自分より大きいアマチュア力士二人に勝利し、成長への自信を深めた。

道場の先生はけがをしないか気づかいつつ、「新しい道を切り開く挑戦」と背中をおす。山本さんは、「自分の力を試し、松山大に相撲部をつくる足がかりにしたい。」と真新しいゼッケンをまわしに付け、金星をねらう。

全国学力・学習状況調査とは別に、県独自の学力診断調査を実施し、課題の解決にきめ細かく対応している。

県独自の学力診断調査

【愛媛県学力診断調査】(H24～)

- 1 目的
 - 教科の目標や内容の実現状況を把握 → 指導の成果と課題
 - 学校の教育指導の充実・学習状況の改善
 - 教育施策の成果と課題を検証・改善
- 2 調査の対象 小5及び中2
- 3 実施教科、調査時間、調査実施日

学年	実施教科	調査時間	実施
小5	国語、理科、算数、社会	各教科45分	12月
中2	国語、社会、理科、数学、英語	各教科50分	

【ふりかえりテスト】(H27～)

- 1 目的
 - 各教科の基礎的な学力の定着状況を把握 → 指導の成果と課題
 - 教科の指導改善及び児童生徒の学力向上に活用
- 2 調査の対象 小5及び中2
- 3 実施教科、調査実施日、調査時間

学年	実施教科	
小5	国語、算数	国語、社会、算数、理科
中2	国語、数学	国語、社会、数学、理科、英語
実施月	10月	2月
調査時間	各教科10分	

※ H29 第2回は、事務所別に作成・実施

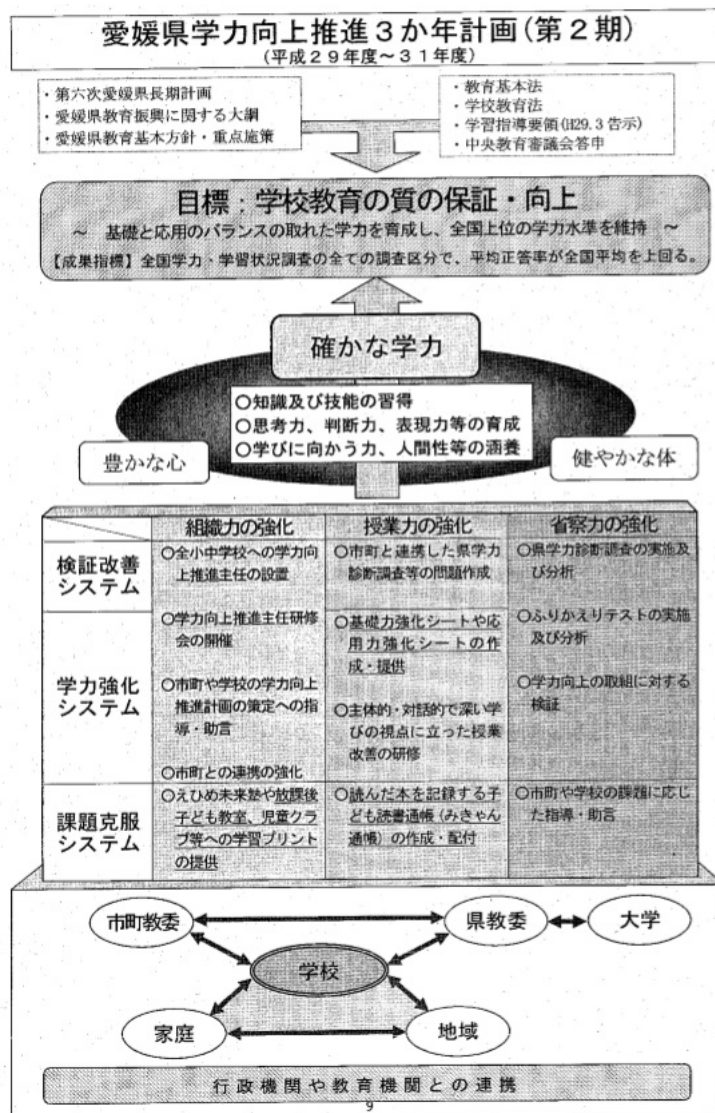
<参考>

【定着度確認テスト】(H24～H28)

- 1 目的
 - 教科の目標や内容の実現状況を把握 → 指導の成果と課題
 - 教科の指導改善・検証改善システムの強化
- 2 調査の対象 小5及び小6
- 3 実施教科、調査実施日、調査時間

学年	実施教科	
小5	国語、社会、算数、理科	
小6	国語、社会、算数、理科	
実施月	6月	11月
調査時間	各教科20分	

次に、平成 29 年度～31 年度の愛媛県学力向上推進 3 か年計画（第 2 期）を記載する。今回の計画では、基礎と応用のバランスの取れた学力を育成し、全国上位の学力水準の維持を目標として、成果指標として全国学力・学習状況調査の全ての調査区分で、平均正答率が全国平均を上回ることとしている。



学力向上を補完する手段として、読書にも注力している。下記に読書推進のためのツール「子ども読書通帳」について記載する。銀行の預金通帳を模してあり、楽しみながら読書の推進ができるよう工夫されている。

「子ども読書通帳」(みきゃん通帳)について

1 目的・効果

- 児童の積極的な読書活動の推進に資する取組として、自分が読んだ本を記録する通帳を県内全ての小学校4、5、6年生に配付。
- 小学校卒業までの3年間の自分の読書量を累積し、読書意欲を喚起。
 - ・ 子どもたち自身が、自分の読書の傾向を把握
 - ・ 新たなジャンルの本を読もうという意欲の高揚

2 内容

- ・ 日付(読み始め、終わり)
- ・ 本の題名
- ・ メモ欄(感想、分類や作者等を書く。)

子ども読書通帳には、自分が読んだ本を記録しましょう。
みんなが、たくさん本に出会ってくれたら、みきゃんはとってもうれしいな。

自分で書いてもらえば、お家の人や学校の先生に書いてもらってもいいよ。

《通帳の書き方》

読みはじめ ～終わり	本の題名	メモ	☆をぬろう
4/10～ 4/13	エルマーのぼうけん	おもしろい物語	☆☆☆

本の分類、著いた人の名前、本のページ数、感想、心に残った言葉などを書いてみよう。

読んだ本について「あつた」「おもしろい」「とてもよかった」などをぬろう。



読みはじめ ～終わり	本の題名	メモ	☆をぬろう
			☆☆☆



愛媛県学力向上推進 3 か年計画について説明を受ける

所 感：

愛媛県の学力向上推進計画については、特筆すべき内容として県が情報サイトで提供する学習シートが挙げられる。愛媛県でも教員の大量定年退職の問題に直面する中で、いかにして県下の児童・生徒たちの学力の向上を図るか、その取り組みからは強い危機感が感じられる。平成 24 年から 28 年 5 か年で全国学力・学習状況調査で全国トップ 10 入りを掲げることがその証明になっている。経験豊富な教員の作成する学習シートを活用することで経験の浅い教員にあっても授業で学習レベルに格差が生じないよう工夫がなされ、さらにタイムリーな改定や発信があり、現場の教員の負担軽減と学習の質の確保が図られる点で優れており、効果として学力の向上に繋がっている点は素晴らしいと感じた。本市の教育委員会も学力向上の具体的施策はもとより、何よりも学力向上の明確な目標を具体的にしっかりと定め、学力の質の確保を強く意識して推進する必要性があると思った。

奈良市「幼児教育アドバイザーの育成プログラムの開発」について

10月20日、奈良市の幼児教育アドバイザーの育成プログラムの開発について視察した。これは奈良市における文科省委託の「幼児教育の推進体制構築事業」の一環であり、経緯、運用状況、効果及び課題等について調査した。

(1) 作成までの経緯

奈良市の目指す教育・保育については、目指す子ども像として「夢と希望をもち、変動する社会をたくましく生きぬく子どもの育成」を目指し、目標として、

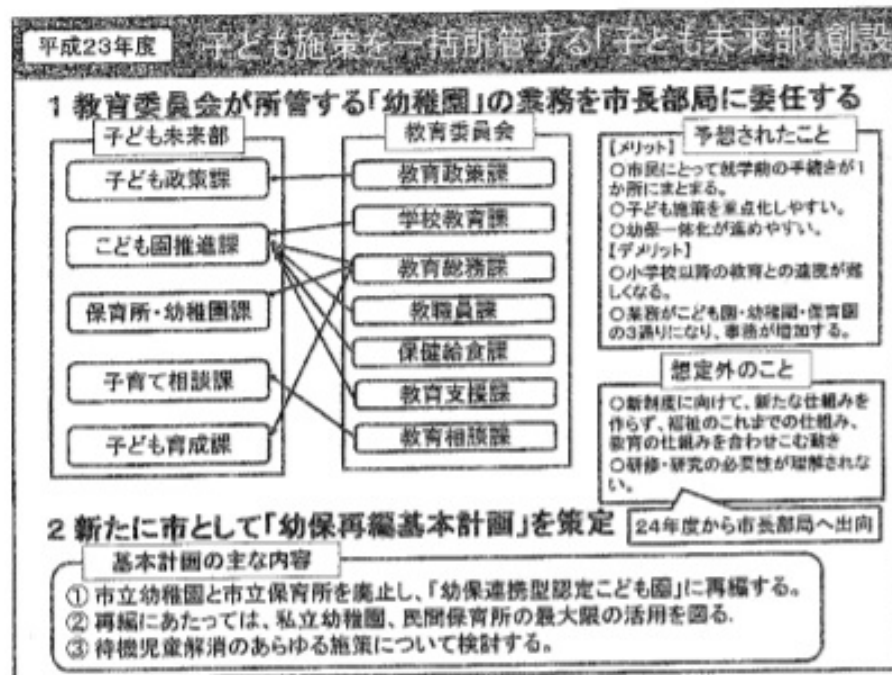
- ・社会の変化に柔軟に対応し、未来を切り開く力の基礎を養う
- ・年齢や発達に応じて生活や遊びの中で乳幼児期にこそ必要な経験を保障する
- ・自ら課題を見つけ、考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく力が身に付くように育てる

奈良市では、平成13年度から16年度に幼稚園と保育園の一元化、施設の供用の検討を行った。平成17年度には文科省・厚労省指定の「総合施設モデル事業」として帯解幼稚園と帯解保育園が選択された。平成18年度から22年度には、学校規模適正化と関連し「認定こども園」を導入。統合再編だけでなく、特色ある園づくりが必要であるとの提言を受け、奈良県では最初となる幼稚園型「認定こども園」が導入された。公立幼稚園での実施例がほとんどないことや使える有利な補助金制度がなく一般財源で手当てするなど課題もあった。平成23年度には、教育委員会の幼稚園業務と市長部局の保育所業務を幼保一体化するために子ども未来部を創設した。

平成24年度には、文科省委託「幼児教育の改善・充実調査の研究」を行い、子ども自ら遊びをつくる幼保合同保育のために保育者の協働のあり方の提示、教育的意思決定の自覚と振り返り、それらを共有していったプロセスの提示を行った。

平成25年度には、幼保小合同研修の在り方に関する調査研究を文科省の「幼児教育の改善・充実調査」の一環として実施した。

- こうした経緯のなかで、奈良市の現状課題として、
- ・ 400 名を超える保育者のうち、実績 10 年を超える幼児教育の経験者が不足している。
 - ・ 若年層が増え経験や学びに隔たりがある
 - ・ 中堅層が極端にいない
 - ・ 研修の企画やリーダーシップの取れる教員の不足
 - ・ 単学級が増え隣のクラスと相談しながら進めることができない
 - ・ 園の小規模化により園内での研修が難しい



「子ども未来部」創設

現状課題を展望する中で、経験豊富な園長が数年で退職することやカリキュラムの理念や内容を理解し、奈良市の幼児教育を支え、充実させていくためには、本市全域に質の高い幼児教育を普及・提供していく方が必要であり、幼児教育アドバイザーの育成に取り組むこととなった。

平成 27 年度文科省委託の幼児教育の推進体制構築事業の「自治体における幼児教育の推進体制の在り方に関する調査研究」として、幼児教育アドバイザーの育成や持続可能な研修体制の在り方について取り組まれた。

平成 28 年、29 年度においても文科省委託を継続し、「幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して指導・助言等を行う幼児教育アドバイザー

一の育成・配置に関する調査研究を実施している。本調査の研究の目的を下記に記載する。

本調査研究の目的

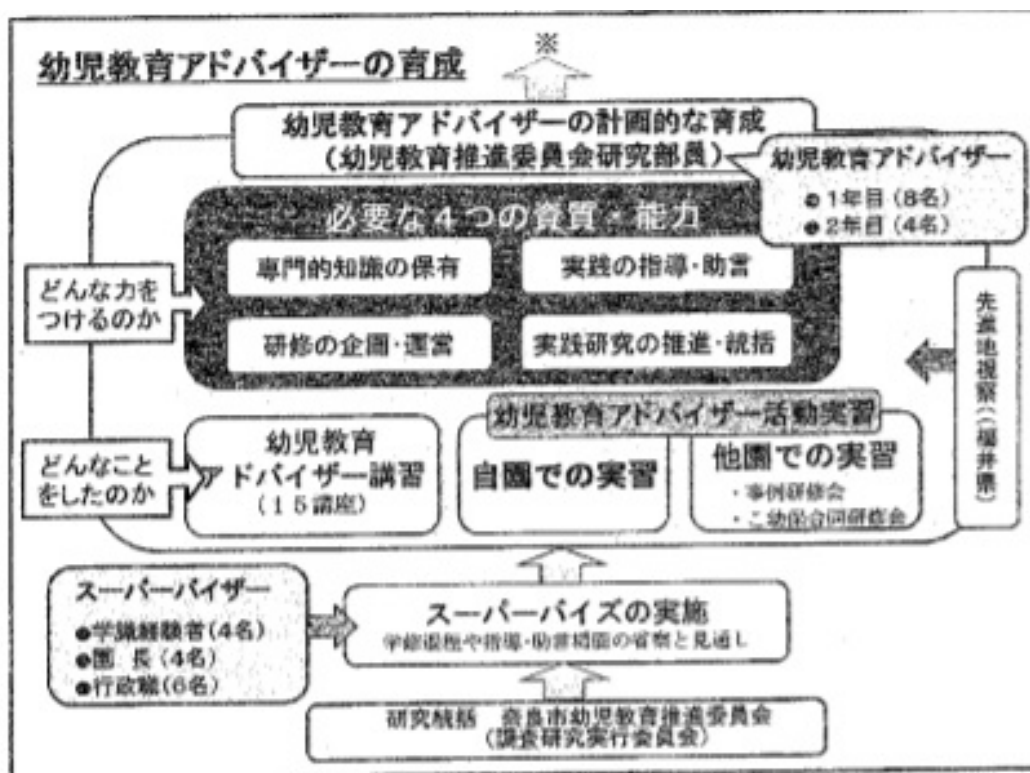
平成27年度に本市で開発・施行した「幼児教育アドバイザー育成プログラム」を継続実施し、育成した「幼児教育アドバイザー」やスーパーバイザーに、1年目の幼児教育アドバイザー候補者のサポートを委ね、継続的に人材育成を図る組織体制及び研修体制を構築することを目指します。具体的には、以下の3点を目的としています。

1. 「幼児教育アドバイザー育成プログラム」で育てたい4つの資質・能力を、実践現場でどのように効率よく習得することができるのか。
 - ・実践上の課題で学びを生かし、受講者の資質・能力を育成する。
2. 全市の保育者が相互に高まり合う研修体制の構築
 - ・市全体を4つのブロックに分け、各ブロックに幼児教育アドバイザー候補者、2年目となる幼児教育アドバイザー、スーパーバイザー(学識経験者・園長・行政職)を配置し、異なる経験年数の保育者が、それぞれの立場から相互に高まり合う研修体制を構築する。
 - ・私立こども園・幼稚園・保育園の実態調査を行い、希望があれば、いつでも幼児教育アドバイザーを派遣できる体制を整える。
3. 持続可能な研修体制の構築
 - ・幼児教育アドバイザーの活用方法について明らかにするとともに、初任者から管理職まで、保育者のキャリア形成の道筋を明らかにする。

(2) 運用状況

幼児教育の推進体制構築事業について幼児教育アドバイザーの育成イメージを下記に記載する。高い専門性が求められている。幼児教育アドバイザーに求められることは、以下の通り。

- ・ 専門的知識の保有
- ・ 実践の指導、助言
- ・ 研修の企画、運営
- ・ 実践研修の推進、統括



(3) 効果

- ・ 専門知識や学び、カンファレンス、事例での実践、カリキュラムの検討、解説、視察研修など、様々なことを学ぶことができた。
- ・ 国の動きなどをいち早く知ることができ、自園での研修に活かすことができた。
- ・ 園長から副園長が幼児教育アドバイザー研修に参加することで自信がついてきたように感じるとの声が出ている。

(4) 課題等

- ・ 毎年、職員の異動があり、メンバーが入れ替わることは避けることができない。
- ・ 平成 28 年度の課題として、アドバイザーになった先生は研修も多く参加し、学ぶ機会が多いが、奈良市全体としては十分ではない。アドバイザー以外も研修に参加できる体制が必要である。

以上の課題を踏まえ、平成 29 年度は、公私立関係なく学びを広げることができるように私立の園にも呼びかけ、スーパーバイザーとして実際にメンバーに加わってもらった。また、その他の職員にも参加を呼びかけ、アドバイザーだけではなく共に研修できる場とした。



幼児教育アドバイザーの育成プログラムの開発について説明を受ける

所 感：

幼児教育の推進は、全国的な課題として各自治体が取組んでいるところだが、教育カリキュラムによる質の確保を担保するための実際の教育現場での体制では、多くの課題が山積し、推進体制の再構築を迫られる実態がある。そこで文科省の委託事業に応募し、推進体制の再構築の一環として、「幼児教育アドバイザー」の計画的な育成と活用を目指して取組んだ奈良市を視察先として委員会で提案させて頂いた。幼児教育に限らず小中学校の教育現場においても共通している課題の一つに、経験豊富な教職員の定年退職問題がある。併せてベテラン教職員と経験の浅い若手教職員との教育の質の格差がある。これらの課題にどう取組んでいくかは、本市にあっても共通の課題と考えられる。今回の視察で参考になった点として、世代間の教育の質を担保するためのアドバイザーの存在の重要性と人材育成プログラムの有効性、継続性についてさらに研究し、取り組んで参りたい。